

ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社／ブロードキャスト・サテライト・ディズニー株式会社  
(以下「ディズニー」という)

第十八回ディズニー・チャンネル／ディズニーXD放送番組審議会  
議事録

開催日時 : 2012年04月10日(火) 17:00~18:30  
開催場所 : 東京都港区麻布台 2-4-5  
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社  
テレビジョン部門オフィス  
スタジオ・ディズニー会議室

在任審議委員数 : 7  
出席審議委員数 : 5  
出席審議委員氏名 : 木下 美子  
中川 真弥  
前田 耕作  
山田 顕喜  
湯川 れい子

その他、ディズニ : 編成部門担当者2名  
ーからの出席者

※ 本審議会の開催に先立ち、ディズニー・チャンネル（チャンネル番号：BS256）に関して、ブロード・キャスト・サテライト・ディズニー（株）より「放送番組の編集の基準」及び「放送番組の編集に関する基本計画」を提案の上、それぞれ2012年2月に原案通り承認された。

- 議案**
- 1) ディズニー・チャンネル及びディズニーXDの番組編成・改編について
  - 2) ディズニー・チャンネル及びディズニーXD放送番組について  
(下記の番組については、本会議に先立ち、各審議委員にDVDを送付した。)
    - ・「マイ・ディズニージュニア」
    - ・「天才学級アント・ファーム」
    - ・「放課後エージェント！オーサム」
    - ・「GAINT KILLING（ジャイアントキリング）」

**審議の概要**

- 1) ディズニー・チャンネル及びディズニーXD番組編成について  
ディズニー・チャンネル及びディズニーXDの番組編成・改編について説明がされ、下記のとおり意見交換が行われた。

(以下●印 審議委員からの意見及び質問、○印 ディズニーからの出席者の回答)

- ディズニー・チャンネルの4月の編成では、『フィニアスとファーブ』の「発掘！カコノハナシ・ペリー」（フィニアス達が過去に遡るエピソードを幾つか放送）をやる予定。また、『ウェイバリー通りのウィザードたち』もいよいよフィナーレを迎え、アレックスたち兄弟のうちの誰が最終的に魔法使いになるかが決まる。
- 夜19:00台のドラマゾーン「ナナドラ」に、新たに『シェキラ！』が登場。
- 新しい日本のアニメーション作品としては、3月末から『わがまま☆フェアリー ミルモでポン！』の放送が開始された。
- 今回ご紹介する『天才学級アント・ファーム』は1月から放送している。
- ディズニージュニアの時間帯では、『マイ・ディズニージュニア』を平日の毎朝09:00に放送し、14:00に再放送をしている。
  
- ディズニーXDでは、『メジャー』の第6シーズンが放送スタート。また、『イナズマイレブンGO』（『イナズマイレブン』の続編）が2月に放送開始された。3月から平日には、『ヒカルの碁』も放送している。
- 映画については、『ジュラシック・パークⅢ』や『ブラザー・ベア』などが面白そうな作品があるが、反響はどうだったか？
- 良い視聴率が取れている。これからも健全な冒険もの映画を増やしていきたいところ。

## 2) ディズニー・チャンネル及びディズニーXD放送番組について

ディズニー・チャンネル及びディズニーXD放送番組について各委員より意見交換が行われた。

(以下●印 審議委員からの意見及び質問、○印 ディズニーからの出席者の回答)

### 『マイ・ディズニージュニア』について：

- ダイスケとマリカの二人のメインホストが、アニメーション、アート、歌、ダンス、クイズ、英語、体操など色々なショートコーナーを合わせた番組。国内のオリジナル制作で、毎月7本程度制作しており、例えばハロウィーンやクリスマスなどの季節性も考慮している。
- マリカは中々よいお嬢さん。個性的だと思う。
- ディズニーソングのコーナーについては、もっと子供がわかりやすいものをテーマにしたらどうだろうか。例えば、英語のコーナーと関連付けるな

どして、犬や猫などはどうか？

- キーボードマンについては、もう少し特徴（特技やキャラなど）が欲しいところ。
- 子供の参加がもう少しあったほうが良いかもしれない。彼らが出ている部分を増やしてもよいのではないか。
- 子供たちが登場するにあたっての自然な流れも欲しいところ。いきなり子供たちが居る感じで、ホストの二人との関わりやコミュニケーションが見えないので、一緒に歌を練習するとか、子供たちが入ってきて挨拶をする等があるとよい。
- 工作をするコーナーでは、きちんと片付けをするシーンもあったほうがよいと思う。
- 英語のコーナーも、他のアクション（例えば料理など）と組み合わせると良いだろう。
- 動物クイズ等に、子供たちがアニメの中に参加するのは面白い。こういうものを増やせば、他局の未就学児童向け番組と差別化が図れるだろう。
- 全体的に、各コーナーの展開が速いと思う。少し忙しすぎて、子供たちも展開に追い付くのが難しいのかもしれない。
- お話を聞かせるコーナーや、各コーナーのテーマ性は良いと思う。
- 今回見たのは放送第一回目ということもあり、二人のホストもやや固く見えるが、回を重ねてキャラが慣れてくれば、柔らかくなり、もっと雰囲気は溶け込むのだろう。
- 現在までにかかなりの本数が制作されており、内容も大きく変わってきている。後日、最近制作された話数をお送りしてお見せしたい。

#### 『天才学級アント・ファーム』について：

- 主人公は天才的な音楽の才能を持つチャイナ・パークスという11歳の女の子。彼女はウェブスター高校にある天才的な能力を持つ子供たちを集めた特別クラス「アント・ファーム」の一員となるが、彼女のクラスの子たちは皆、同じ高校の年上の子たちから「アリンコ」と呼ばれて（やっかまれて）いじめられている。自分たちもこの高校の同級生なのだと思わせたいチャイナたちは、上級生たち相手に奮闘する…というストーリー。
- 日本ではこのような内容のドラマは珍しい。これくらいの年齢の子供が登場する作品になると、どうしても中学生日記のような真面目な作りになってしまうが、このドラマは雰囲気も明るく、登場人物のキャラがいい。
- 飛び級する、というのもそもそも日本では珍しいこと。
- チャイナの動きもテンポがよく面白い。
- 歌だけではなく、役者としても才能があり活躍が期待できる。

- 子供がすぐ受け入れられそうな良い作りだと思う。特に注文の付けようがない出来だと思う。
- 全体的にオーバーなのが、とにかく面白い。

『放課後エージェント！オーサム』について：

- 学校生活を楽しくするために、つまらないものを奇抜なアイデアと見事なチームワークで全てオーサム（最高にイカす）なものに変えてしまおうという四人と一匹のチームが主人公のストーリー。
- どの年齢層の子供たちが観るだろうかと考えていたが、声の吹替えが見事だと思う。特に、最後に声が揃う部分が上手かった（ハードロックの部分など）。
- 少々展開が速いが、若い年齢層向けには受けるだろう。
- シリーズの定着には、もう少し時間がかかると思われる。
- もう少し経てば、誰が何をしているのか等、キャラクターが馴染んでくるのでは。

『GIANT KILLING (ジャイアントキリング) 』について：

- 低迷を続ける弱小プロサッカーチームのE T Uに、達海猛という人物が監督として迎えられる。彼は昔このチームのスター選手であり、引退後は監督としてイギリスで活躍した経歴を持つ。そんな彼が、自分が過去に所属していたチームの再生を託されるというストーリー。
- 怖い顔のキャラが多く、作品タイトル名自体も少々怖い。
- 劇画風といった印象を受ける。元々はどこで放送されたのか？
- 最初の登場はNHK。画のタッチは独特ではある。ターゲット年齢層も少々上の層と見込んでいる。
- さわやかさというより、厳ついという印象が強くリアル感がある。
- アドバイザーの監修が入っており、選手たちの動きやフォーメーションがリアルに再現されている。また、外国人選手や監督の台詞がバイリンガルになっている箇所があり、そこでもリアル感を持たせるための工夫が見られる。
- 今の若い人たちの漫画の好みも変化しているので、ある程度年齢の高い層向けという意味では、こういうタッチの作品も良いと思う。

以上をもって本会議は、議案の審議を終了したので18：30に閉会した。

上記の議事の経過の要領及びその結果を明確にするため、本議事録を作成する。